ファシリティーマネジメント

「ファシリティーマネジメント」とは、組織が保有するコンピューターやネットワーク、施設や設備などを維持、保全し、よりよい状態に保つための一連の活動のことです。経営管理手法のひとつとされており、もともとは、組織が所有する不動産や建物などの施設を効率的に運用するとともに、より戦略的に活用するための手法として誕生しました。

# 1．ファシリティーマネジメントの目的と考え方

情報システムは、様々なシステム環境で支えられています。コンピューターやネットワーク機器などが設置される施設の設計、構築、運用にファシリティーマネジメントを応用すると、利用者に対し、ITサービスを最適な状態で提供できます。ハードウェアやソフトウェアの導入、保守、修理などのカスタマーサービスを実施する場合、ファシリティーマネジメントは重要な活動のひとつとされています。

ファシリティーマネジメントは2つの活動で構成されます。

# 2．施設や設備の管理

「施設や設備の管理」とは、データセンターなどの施設やコンピューター、ネットワーク機器などの設備を管理することです。

ファシリティーは重要な経営資源でもあるため、これらを適切に管理することで、次のような効果が期待できます。

* 施設や設備の運営コストを可視化し、コストの最適化を促進する。
* 施設や設備の戦略的活用に向けた意思決定を支援する。
* 常に最適な環境のもとでITサービスを提供し、顧客満足度を高める。
* 施設や設備にかかわるトラブルに速やかに対応する。
* セキュリティレベルや事業継続性が向上する。
* 電力量や排熱量を抑え、環境負荷を低減する。

## （1）耐震耐火設備

情報システムにおけるファシリティーマネジメントでは、地震・水害などの自然災害への対策、火災などの事故への対策を行うことが重要であると考えられています。窓の有無、空調、ノイズ、漏水・漏電など、機器の運用に障害となるものが発生していないかどうかを定期的に点検し、必要に応じて対策を講じます。

例えば、落雷による停電や瞬断、地震などの災害から情報システムを守るためには、次のような装置の設置を検討します。

### ●UPS

「UPS」とは、停電や瞬断時に電源の供給が停止してしまうことを防ぐための予備の電源装置です。「無停電電源装置」とも呼ばれます。停電時に電源を供給します。UPSが継続して供給できる時間は一般的に10～15分程度のため、速やかに作業中のデータを保存したり、システムを停止したりする必要があります。

### ●サージ防護プロテクトの付いたOAタップやモデム

「サージ」とは、瞬間的に発生する異常に高い電圧のことです。近くに落雷があった場合、高い電圧によって発生した電流（数千～数万A）が電線や電話回線を通じて流れ込み、コンピューターが壊れてしまうことがあります。「サージプロテクト機能」とは、こうしたサージによる被害を防ぐための機能のことで、サージプロテクト機能の付いたOAタップやモデムを使ってコンピューターを守ります。

### ●自家発電装置

「自家発電装置」とは、停電などにより主電源が使えなくなった場合に、専用のコンセントから電源を供給する装置のことです。太陽光発電装置、風力発電装置、ディーゼル発電装置、ガス発電装置など複数の種類があります。一般的に通常時は使用されないため、いざというときに動作するように、定期的に点検を行っておくことが重要です。

### ●耐震・免震装置

「耐震・免震装置」とは、データセンターなどの施設の基礎部分や各階の間などに設置され、地震の揺れに耐えたり、揺れを抑えたりする装置のことです。コンピューターやネットワークなどの機器を震動から守り、災害による故障や破損を回避できるため、有効な事業継続対策のひとつとされています。床に設置する「床免震」や、機器の下に設置する「機器免震」などがあります。

## （2）セキュリティ対策

施設や設備の管理では、災害対策のほか、人的脅威によるリスクから情報システムを守るためのセキュリティ対策も重要です。

施設や設備の管理におけるセキュリティ対策には、「セキュリティワイヤ」と「入退室管理」などがあります。

### ●セキュリティワイヤ

**セキュリティワイヤ**とは、ノートパソコンなどに取り付けられる、盗難を防止するためのワイヤのことです。ノートパソコンなどの機器に装着し、机などに固定すると、容易に持ち出しができなくなるため、盗難防止に適しています。

### ●入退室管理

「入退室管理」とは、施設内への立ち入りを禁止するために、IDカードや指紋認証、顔認証などを用いて入退室を管理することです。

# 3．施設や設備の維持保全

「施設や設備の維持保全」とは、施設や設備を適切な状態に維持保全することです。施設や設備を点検し、償却の期限を迎えた資産は新しい資産に移行し、古いものは廃棄します。施設や設備の寿命を長期化し、投資対効果を最大化するだけでなく、快適かつ安全なITサービスを継続的に提供することが目的です。

適切なタイミングで確実に実施する必要があるため、管理責任者を配置してマニュアル類を整備し、明確な維持保全計画に従って作業を進めます。また、計画された保全活動が適正に行われているかどうかを確認するため、定期的な報告および評価を行うことも重要です。

# 4．環境対策

多種多様なIT機器が市場に出回り電力消費量が問題視される中で、省エネ対策や環境保護への意識が高まっています。企業でも、環境に配慮したIT利用の取り組みが求められるようになり、「グリーンIT」が広く導入されるようになりました。

グリーンITとは、IT機器の省エネや有効利用だけでなく、IT機器を利用することで社会全体の省エネや環境保護につなげようという考え方のことです。

例えば、電子会議システムを導入して出張を減らすことで、社会全体の二酸化炭素の排出量の削減につなげます。